六ヶ所村産業協議会 御中

# 【ご提案資料】データ分析力強化研修

2025/3/6

Link and Motivation Group

# デジタル時代に求められるスキル

## デジタル時代に取り巻く環境の変化と必要なスキル

基幹システムの導入などデジタル化が加速することに伴い、

**よりデータを収集・検証・共有しながらデータをもとに判断・行動できる**ことが求められている

**背景**

**基幹システムの刷新、SFA、MA、HRTECなどのデータベースが身近に、かつ、素早くアクセスできるような状態になっている**

**PDCAサイクル**

ビジネス上の課題・問題

関連部署へのヒアリング

仮説立て データ分析 原因特定

対策立案 シミュレーション

自・他組織 動機づけ

施策実行

効果測定

**収集**

事業課題を抽出するため、
定量、定性の側面から、
情報を収集、整理する

**仮説/分析**

課題特定をするため、
分析テーマ（仮説）を設定し、
データを要約、分析する

**共有/実行**

実行強度を図るため、
分析結果と対策を結合し、
関係部署に落とし込む

**検証**

想定した結果検証のため、
目標と結果の比較分析し、
改善項目の抽出を行う

(C) Link and Motivation Group

# 理想な状態と陥りがちな状態について

理想な状態に近づくためには、下記のように対応範囲を広げていく必要がある

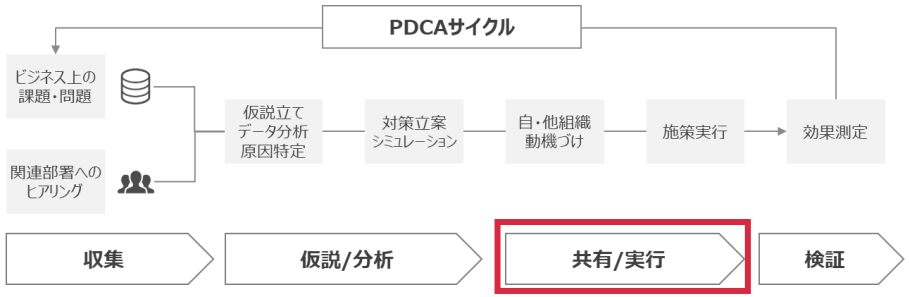
## 陥りがちな状態

**データを閲覧するのみの状態**
**（受動的）**

↓

事実の違いを確認ができるが、問題・課題の発見までに至らず、
勘や経験に頼ってしまい、いつまでも改善がしない

■対応範囲



現場の声

「先月はこの商品が売れたのか、
今月は多めに仕入れよう。」

「新しい工場の稼働率はどうだろうか。
数値だけをみると好調だな。このまま行こう。」

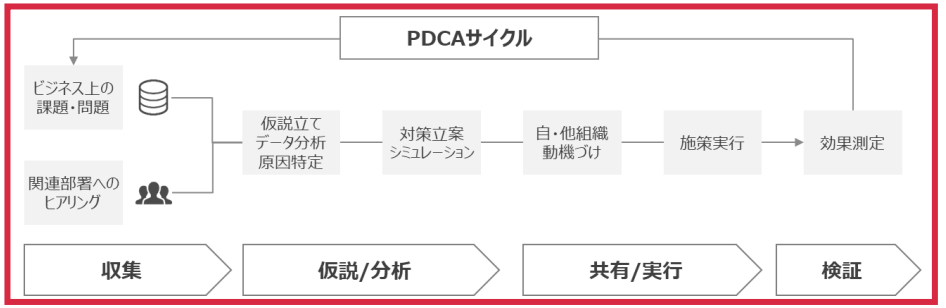
## 理想な状態

**データを元に問題解決ができる状態**
**（能動的）**

↓

事実の違いの背景や因果を理解し、
真の問題・課題が発見で切る為、課題解決につながる

■対応範囲



現場の声

「先月はこの商品が売れたのか。
どの層に売れて、どの層に売れてないんだろう？
地域・人・時期など仮説と検証をして、
**最適な仕入れ数に調整しよう**」

「新しい工場の稼働率が好調な要因は何だろう？
時系列でデータから
**持続的に効率化を測るための変数をみつけた**ので、
他の工場にも展開しよう」

(C) Link and Motivation Group

## データを元に問題解決ができる為のステップ

データを元に問題解決ができる状態に向けては、
データ作成力に加えて、**データ活用力の強化**が今後の育成のポイントとなる

| | データ作成力 | | データ活用力 | |
|---|---|---|---|---|
| Step | 収集 | | 仮説 | 分析/検証 |
| 業務フロー | データを蓄積する | データを作成する | 仮説を立てる | 検証する（データ分析） |
| 目的 | データをデジタルに蓄積する | 分析を想定したデータベースを構築する | 正しく再現性のある仮説立てをする | 仮説という主観をデータという客観で確認する |
| スキル | ・Excelスキル | ・構造思考<br>・全体俯瞰<br>・Excelスキル | ・仮説立て | ・ビジュアル分析<br>・統計分析<br>・仮説検証 |
| 対象 | 全社員 | | 管理職 ⇒ 全社員 | |

# 事例紹介

## 事例紹介：大手化粧品メーカーA社　-データリテラシー向上研修-

**大手化粧品メーカーA社**
■従業員：約4,000名
■事業内容：化粧品の製造販売

**デジタル人財育成領域**

デジタル アダプション（適応） → デジタル アダプション（活用） → デジタイゼーション → デジタライゼーション → デジタルトランスフォーメーション

| | |
|---|---|
| **背景** | 販売力・企画力向上のための社内データソースの活用を目的として一年前に**BIツールを導入。**<br>現在社内の顧客・商品・売上のデータ関連が全てBIツールで一元管理されている。<br>特定の社員にBIツールの利用権限を付与し、データの取りまとめと管理を行う。 |
| **課題と導入理由** | これまでExcelで時間をかけて行っていたデータ分析（主にデータの可視化）が短時間でできるようになり、ビジュアル分析の観点では「業務効率化」が図れた。<br>一方で、BIツールに流し込むデータの正規化（クレンジング）には、依然として大きな手間を要し、またビジュアル分析の結果から示唆出しやアクションを検討するフェーズでは、過去の経験や勘が重要視される状況に変化がない。<br>**BIツール活用に必要な前工程（データを正しく蓄積する）と後工程（データを正しく分析する）で必要となるスキルのリスキリングが急務と判断。** |
| **具体的な取り組み** | **■リンクアカデミーへの期待**<br>①社内データを統一させ、質のいいデータを蓄積するためのデータ活用のお作法（データリテラシー）を習得させたい<br>②可視化されたデータをもとに適切な分析と示唆出しができるデータ分析力を向上させたい<br>**3工程に分けて研修を開催。**<br>**対象をBIツール利用社員だけでなく、**<br>**BIツール非利用社員まで広げて、組織全体のデータリテラシー強化を図る**<br>データ基礎力強化 / 統計分析力強化 / 実践力強化<br>データリテラシー研修 / データ分析研修 / 原因究明力向上研修 |
| **効果** | **☑ データの蓄積の仕方、データの持たせ方、扱い方に共通認識が生まれた。**<br>**☑ 分析前のデータクレンジングにかかる膨大な時間ロスが削減した。**<br>**☑ データで意思決定する文化が芽生え始めた。** |

(C) Link and Motivation Group

# 事例紹介：大手飲料品メーカーＡ社

**大手飲料品メーカーＢ社**
■従業員：約7,000名（連結：約29,000名）
■事業内容：国内酒類事業

**デジタル人財育成領域**

デジタル アダプション（適応） → デジタル アダプション（活用） → デジタイゼーション → デジタライゼーション → デジタルトランスフォーメーション

| | |
|---|---|
| **背景** | コロナ禍による飲食店の営業制限や、若者の「ビール離れ」、飲酒習慣の変化や少子高齢化も影響し国内市場は縮小。<br>外出自粛期間中の家庭内消費の増加は一時的でその後は消費額が減少傾向に。<br>機能性飲料やプレミアム商品で新たな需要を喚起するほか、DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用した新しいビジネスモデルを模索。 |
| **課題と導入理由** | これまでのような足しげく顧客店舗に通い、オーナーとの関係性を基盤とした営業が困難に。顧客からは「来るなら、いつ、どんな商品がどの対象に売れるか？などのデータを持ってきてほしい」と課題を突き付けられた。<br>**会社の文化であり強みであった「粘り強さ」「執着心」などは残しつつも、ロジカルに顧客提案ができる営業組織や意思決定の文化醸成が急務となった。** |
| **具体的な取り組み** | **■リンクアカデミーへの期待**<br>①論理構築やデータ活用ができる人材になるための素地を身に着けさせてほしい<br>②頭でっかちにならないようにハンズオンで分析してみる、資料を作成してみるという体験を提供してほしい<br><br>**業務用営業部門社員にデータ分析研修**<br>**新人研修、若手層研修に伝わる提案書作成研修**<br><br>データ基礎力強化：データ分析研修<br>実践力強化：原因究明力向上研修<br>資料作成力強化：伝わる提案書作成研修 |
| **効果** | ☑ まずは結果から原因を考えるというプロセスの理解が浸透しつつある。<br>☑ DX推進を前提としたデジタルが苦手な営業社員の意識変革につながった。<br>☑ 新入社員研修の受講者満足度評価は最高レベルだった。 |

(C) Link and Motivation Group

# データ活用人材研修

## 本施策で目指す状態

**組織のデータドリブン化（データを基に意思決定や行動を行う）に
向けた素地を習得し、業務におけるデータ活用を促す人材育成**

### Before

**データを閲覧する状態（受動的）**
↓
**事実の違いを確認ができるが、
問題・課題の発見までに至らない**

「先月はこの商品が売れたのか、今月は多めに仕入れよう。」

「新しい工場の稼働率はどうだろうか。数値だけをみると好調だな。このまま行こう。」

### After

**データを活用し、問題解決ができる状態（能動的）**
↓
**事実の違いの背景や因果を理解し、
真の問題・課題が発見できる。
また課題解決方法を実行できる**

「先月はこの商品が売れたのか。どの層に売れて、どの層に売れてないんだろう？　地域・人・時期など仮説を立てて要因分析した上で、施策を検討しよう」

「新しい工場の稼働率はどうだろうか。なるほど好調だな。
何が要因だろう？
時系列でデータを確認して、今後持続的に効率化を測るための変数をみつけて、他の工場にも展開しよう」

(C) Link and Motivation Group

# データ分析とは

データ分析とは、原因と結果の因果関係を
「仮説」という主観と「データ」という客観で確認していく作業のことを言います。

＜ケース＞

＜スキル＞

**結果**

動画配信サービスが好調

**仮説**

コロナによる巣籠需要の影響では？

思考力

**データ**

・スマートフォン普及率
・サブスクリプションモデル利用増
・企業内利用拡大
・コンテンツの質（利用者アンケート）

データ作成力

**検証**

巣籠需要の影響度は少なく、多様な変数が影響している

分析力

(C) Link and Motivation Group

## ケース例）BIツールを活用したデータ分析の流れと求められるスキル

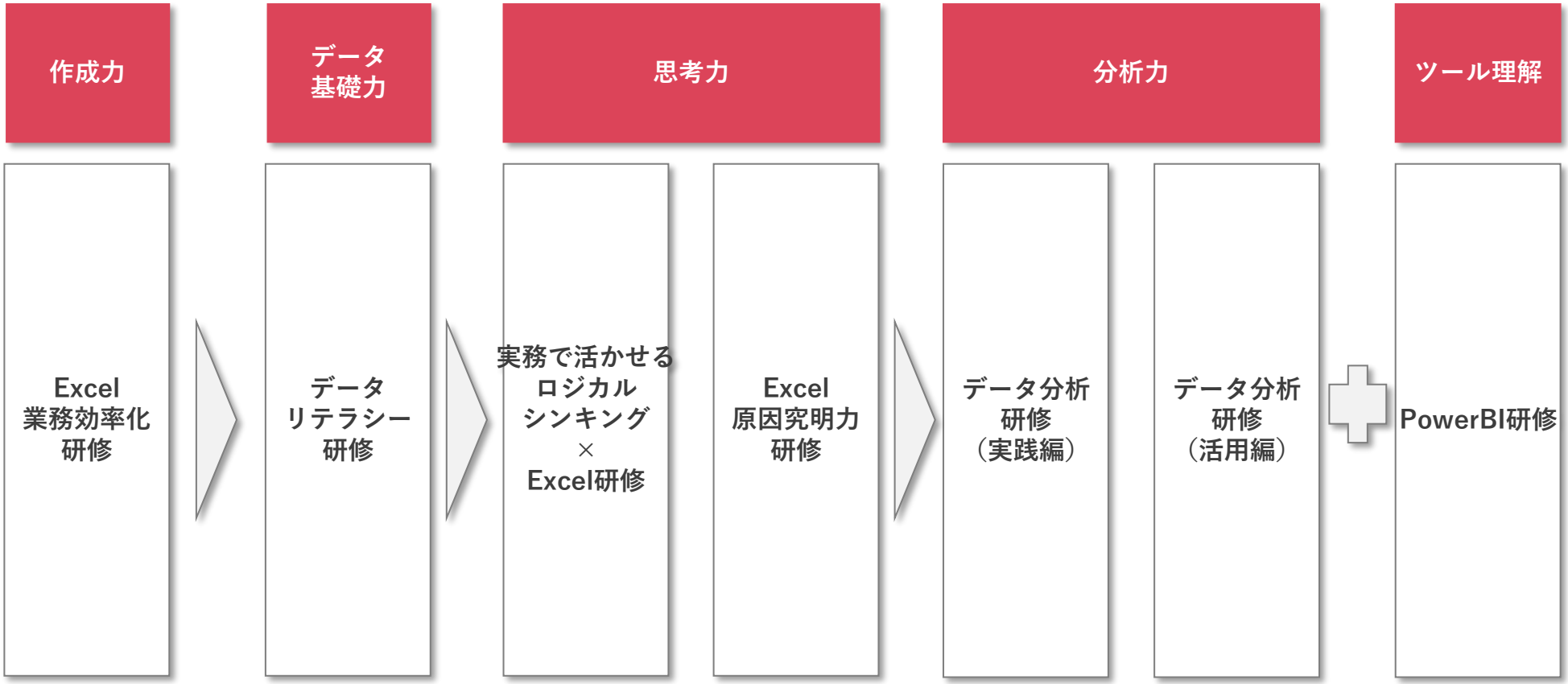
BIツール入れている会社
PowerBIニーズには
こちら

| シチュエーション | 前工程 | 分析工程（BIツール） | 活用工程 | |
|---|---|---|---|---|
| | データ入力 | 加工・編集・ビジュアル化 | 認識・抽出・判断 | |
| | | | | |
| | データ作成力 | ツール理解 | 思考力 | 分析力 |
| Before | ・各部署でデータ書式がばらばら（現場最適）<br>・リレーション、データベースの概念をもってデータが管理されていないため、データ連携ができない<br>・データクレンジング工程が膨大に | | ・BIツールで行った分析（ビジュアル分析）結果をうのみにして、無思考で施策を進めてします。<br>・これまで行ってきたExcel等でのデータ分析と質が変わらない | |
| After | ・全体最適をもってデータ管理がされているため、部署毎の管理データをすぐに連携させることができる<br>・BIツールなどのデータ分析ツールへのインポートも容易（データクレンジングは軽微）。 | | ・BIツールの分析結果をもとに、データ間の正しい関係性を認識して意思決定ができる<br>・様々な統計分析手法を下敷きにデータが示す状態を理解している。 | |

(C) Link and Motivation Group

# データ活用人材研修ロードマップ

事前にExcelスキルの診断テストを実施して、不足する対象者には
Excelスキル研修を受講いただいてからデータリテラシー強化に進んでいただきます。



# 診断サーベイ：データ分析スキルサーベイ

## ビジネスで活用するデータ分析のスキル/知識を可視化する診断サーベイ

### サーベイ概要

**測定方法**

| 実技操作 | 知識（四肢択一） |
|---|---|
| Excelを実際に操作して、データ分析を行う分析スキルを診断します。 | データ分析において必要となる知識を択一式で診断します。 |

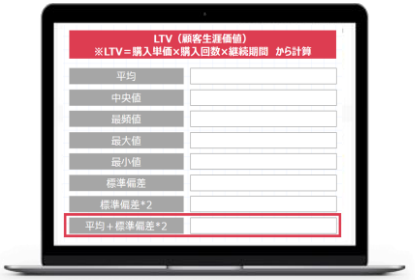
| スコア | スコア：100点満点　　ランク：A～G |
|---|---|

**測定スキル**

- データ把握力
- データ分析手法活用力
- 仮説分析力
- 課題発見力
- 効率化

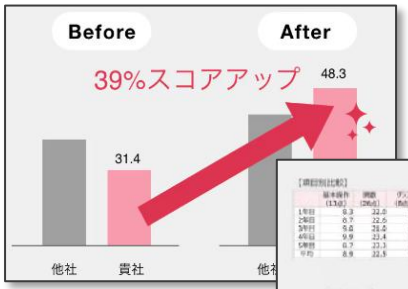
＜実技操作＞

＜知識試験＞

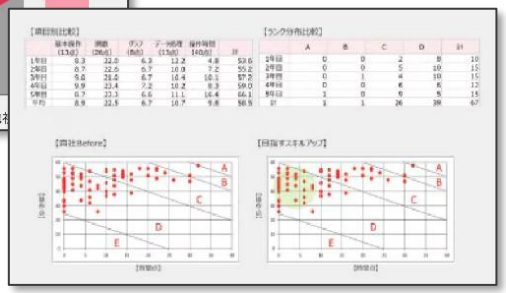



＜結果アウトプット＞

【スキルの伸びを可視化】




【「他社」でスキルを相対化】



# 【Excel業務効率化研修】プログラム概要

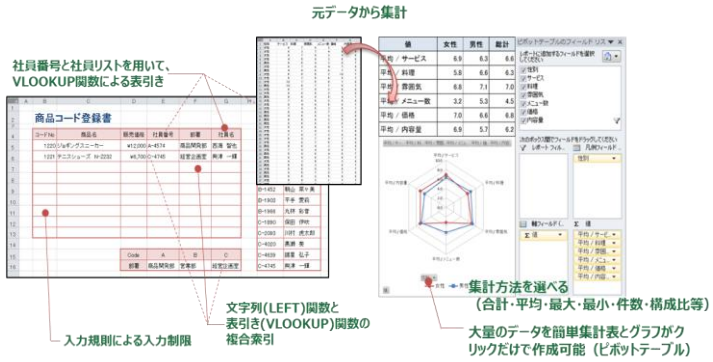
診断 | 作成力 | 思考力 | 分析力 | ツール

～ 「Excelができる」ではなく、「ビジネスシーンで効率よく活用できる」を目指す ～

**■　プログラム目的**
・Excelの基本操作から応用操作、効率の良い方法を習得することで、作業時間を短縮させる
・幅広くスキルを身に付け、データによってスキルの使い分けを行う

**■　習得するスキル**
・ビジネス関数（SUM、IF、VLOOKUP、SUMIF、COUNTIF など）
・集計機能（ピボットテーブル、ピボットグラフ）、記録マクロ

**■　対象者**
・Excelを効率的に使用したい方




■ タイムテーブル

| 時間 | 0:10 | 0:50 | 0:10 | 0:50 | 1:00 | 1:20 | 0:10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 開催 | | モジュール1 | | モジュール2 | | モジュール3 | |
| 学習内容 | 導入 | 基本操作の確認と<br>作業の効率化 | 休憩 | ビジネス関数と<br>効果的な使用方法① | 休憩 | ビジネス関数と<br>効果的な使用方法② | 休憩 |
| 小目的 | ・研修の目的、全体像を理解する。 | ・数値を扱う上で必須となる計算方法や基本の関数を習得する。 | | ・ビジネスシーンで優先順位の高い関数とその使用方法を習得する。 | | ・ビジネスシーンで優先順位の高い関数とその使用方法を習得する。 | |
| 主な<br>習得機能 | ■ 挨拶・自己紹介<br>■ 研修の目的<br>■ 全体像の把握<br>■ 諸注意 | ■ Excel基本操作<br>■ 四則演算<br>■ SUM関数<br>■ AVERAGE関数<br>■ MAX関数<br>■ MIN関数<br>■ 絶対参照指定<br>■ ショートカットキー | | ■ IF関数<br>■ 比較演算子<br>■ IF関数のネスト方法<br>■ 条件付き書式 | | ■ VLOOKUP関数<br>■ エラー処理<br>■ 入力規則<br>■ SUMIF関数<br>■ COUNTIF関数 | |

| 0:40 | 0:50 | 0:10 | 0:40 | 0:10 |
|---|---|---|---|---|
| モジュール4 | モジュール5 | | モジュール6 | |
| 相手に伝わりやすいグラフ作成と<br>データベース機能 | 効率の良いデータ集計と<br>記録マクロの登録 | 休憩 | 総合演習問題 | 総括 |
| ・表形式で表現されている数値を視覚的に表現するグラフ作成・編集方法を習得する。<br>・Excel内に蓄積された膨大なデータを整理整頓するスキルを習得する。 | ・様々なデータ加工・集計方法を習得する。<br>・記録マクロの登録方法を習得する。 | | ・作業時間を意識しながら、身に付けたスキルを活用し、課題を通して理解度を高める。 | ・研修で何を実施したのかを振り返りつつ、個別での質問にお応えする。 |
| ■ グラフ作成<br>■ グラフ編集<br>■ 並べ替え<br>■ 抽出 | ■ ピボットテーブル<br>■ ピボットグラフ<br>■ 記録マクロ | | ■ 演習問題 | ■ 研修の振り返り<br>■ 質疑応答<br>■ 研修後のアンケート<br>■ 今後の学習方法 |

(C) Link and Motivation Group

# 【実務で活かせるロジカルシンキング×Excel研修】プログラム概要

**実務で活かせる**
**ロジカルシンキング×Excel研修**

●形式　：5-6人1組のグループを基本としたグループワーク、レクチャー
●時間　：1日（6時間）
●講師　：2名（ペアティーチング）

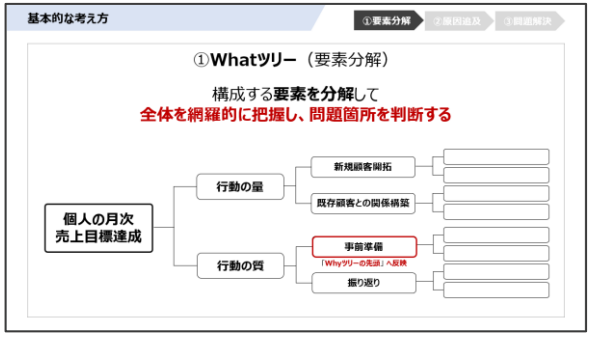
## ■プログラムの目的

『ロジックツリーのフレームを学習し、実務に生かせるロジカルシンキングを習得する』
・「ロジックツリーを用いた、要素分解→原因追及→問題解決の課題解決スキル」を獲得する
　└得られるスキル：ロジックツリー（What/Why/How）／MECE／包含関係／仮説思考／因果関係／水平思考／マトリクス／表作成Excelスキル

## ■プログラムの流れ

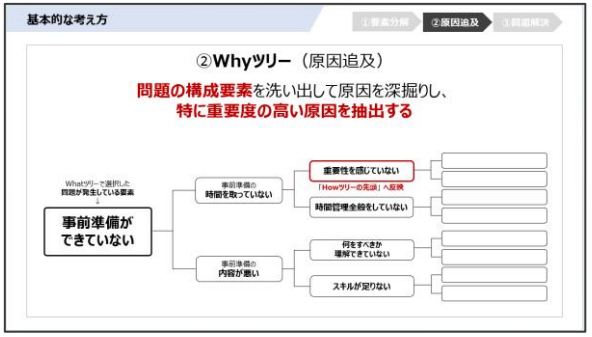
### STEP１：要素分解

**構成する要素を「分解」することで**
**全体を網羅的に把握し**
**問題箇所を判断する**
**（MECE、包含関係）**



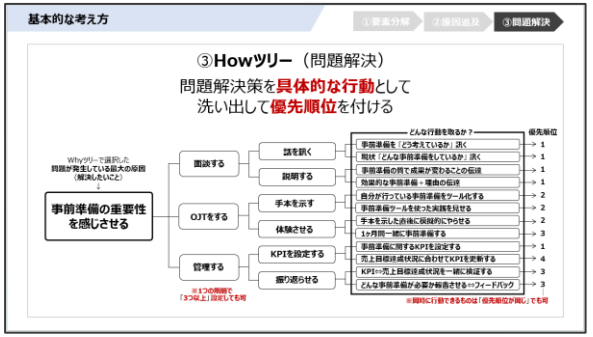

### STEP２：原因追及

**「問題の定義」を具体化することで**
**問題の構成要素を洗い出すことができ**
**重要度の高い原因を抽出する**
**（仮説思考、因果関係）**



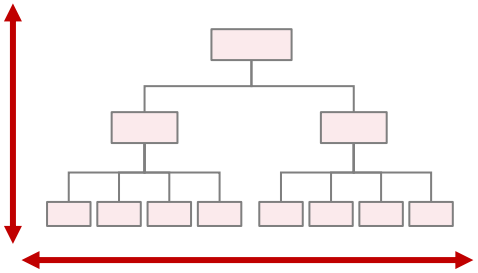
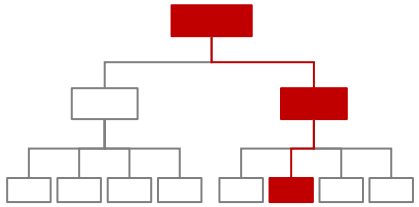
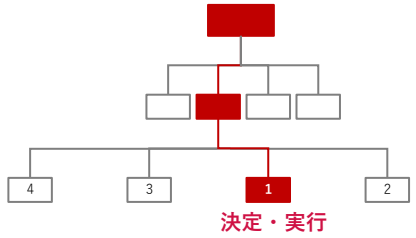

### STEP3：問題解決

**「水平思考」をすることで**
**既成概念に捉われない発想で**
**問題解決策を決定する**
**（水平思考、マトリクス）**



# 【実務で活かせるロジカルシンキング×Excel研修】プログラム内容_観点

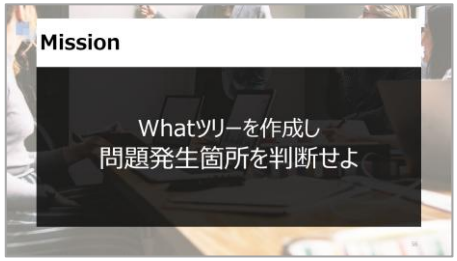
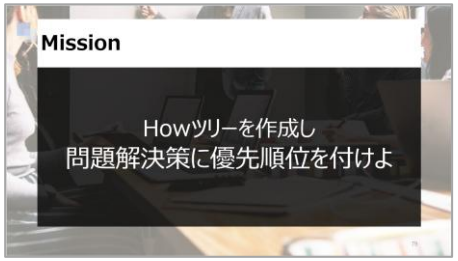


| | 要素分解 | 原因追及 | 問題解決 |
|---|---|---|---|
| 実現したい状態 | 網羅的に、早く、正しく現状を捉える力<br>  | 最も解決すべき要因を特定する力<br>  | 優先順位から解決策を決定・実行する力<br>  |
| 必要なスキル | Whatツリー<br>（MECE/包含関係） | Whyツリー<br>（因果関係/仮説思考） | Howツリー<br>（水平思考/マトリクス） |
| 観点 | 「部分の情報」整理<br>ではなく<br>「全体の構造」を捉える | 「仮説」の切り口で<br>データを読み解く | 「既成概念」ではなく<br>「水平」に事象を捉えて<br>問題解決策を決定する |
| 詳細 | 問題箇所を判断するためには<br>構成する要素を「分解」して<br>全体を「網羅的に」把握する必要がある。<br>また、要素分解は「モレなく・ダブりなく」する<br>必要があり<br>包含関係に注意して行う。 | 問題箇所の原因を深堀りするには<br>問題の構成要素を洗い出す必要がある。<br>その際に、「仮説」を元に思考しながら<br>「因果関係」に注意して考える必要がある。<br>また、「内部⇔外部」「単発⇔継続」「有形⇔無形」といった反対の視点を入れることで<br>思考スピードが上がる。 | 問題解決策の思考は<br>「既成概念」に捉われない「水平思考」で考える。<br>問題解決策が複数考えられたあとは<br>マトリクスを使い2つ以上の軸で判断・決定する。<br>軸は重要度や緊急度などが挙げられる。 |

(C) Link and Motivation Group

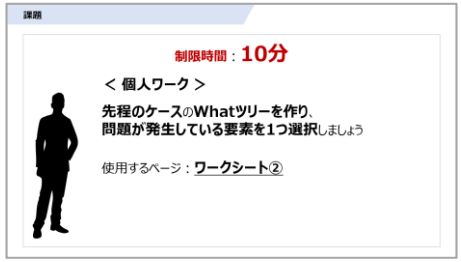
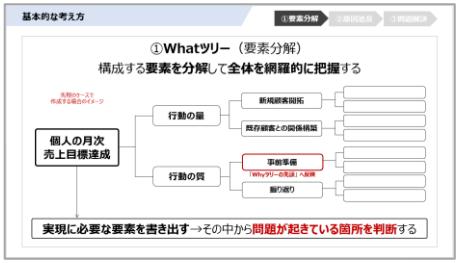
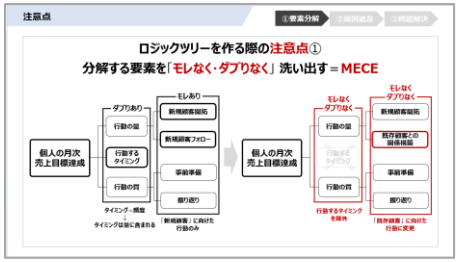
## ケース設定：営業マネージャーとして、新規営業部隊の営業指標（KPI）設定・達成に向けた意思決定をする

### ■研修全体の流れ

| Mission 1 | Mission 2 | Mission 3 | Mission 4 |
|---|---|---|---|
| Whatツリーを作成し<br>問題発生箇所を判断せよ！ | Whyツリーを作成し<br>問題発生原因を判断せよ！ | Howツリーを作成し<br>問題解決案を決定せよ！ | 対象者のKPIを選定せよ！ |
|  | |  | |

### ■各ケースワークの流れ

ケースワークのなかで、インプットとアウトプットを繰り返しながら、データリテラシー獲得に必要な知識や観点を習得していきます。

| インストラクション | 個人ワーク/グループワーク | 解説 | 追加解説 |
|---|---|---|---|
|  | |  |  |

# 【実務で活かせるロジカルシンキング×Excel研修】タイムテーブル



■ タイムテーブル

| 時間 | 0:10 | 0:35 | 0:10 | 0:45 | 0:10 | 1:10 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開催 | | モジュール1 | | モジュール2 | | モジュール3 |
| 学習内容 | 導入 | ロジカルシンキングの重要性 | 休憩 | ロジカルシンキングの実践① | 休憩 | ロジカルシンキングの実践② |
| 小目的 | ・研修の目的、全体像を理解する。 | ビジネスにおけるロジカルシンキングの重要性を知る。 | | ロジカルシンキングのベースとなる思考フレームをロジックツリーを通して習得する。 | | ロジカルシンキングのベースとなる思考フレームをロジックツリーを通して習得する。 |
| 主な習得機能<br>※下線までMUST<br>※下線以降WANT | ■ 挨拶・自己紹介<br>■ 研修の目的<br>■ 全体像の把握<br>■ 諸注意 | 【習得内容】<br>■ 問題解決に向けて進めたい基本的な流れの把握 | | 【習得内容】<br>■ ロジックツリー<br>└Whatツリー（要素分解）<br>└MECE/包含関係 | | 【習得内容】<br>■ ロジックツリー<br>└Whyツリー（原因追及）<br>└因果関係/仮説思考<br>└Howツリー（問題解決）<br>└水平思考/マトリクス |

| 1:00 | 0:50 | 0:10 | 0:40 | 0:10 | 0:50 | 0:20 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | モジュール4 | | モジュール5 | | モジュール6 | |
| 休憩 | 演習 | 休憩 | Excelを使用した営業指標の管理 | 休憩 | ロジカルシンキング×Excel ロジックツリーが導く次月KPI作成 | 総括 |
| | 自身の仕事をロジックツリーを使って整理する。 | | 指標管理に必要なExcelスキルを習得する。 | | モジュール1～5で獲得したフレームやスキルを使って、実務に接続することを目的したワークを行う。 | ・研修で何を実施したのかを振り返りつつ、個別での質問にお応えする。 |
| | 【実践】<br>■ モジュール1.2.3で学習したロジックツリーを元にして自身の業務を整理<br><br>【反復】<br>■ What/Why/Howツリー | | 【習得内容】<br>■ 表作成スキル<br>└表の構造<br>└表作成に必要な関数<br>└SUM関数、SUMIF関数など | | 【実践】<br>■ 次月KPI作成ワーク | ■ 研修の振り返り<br>■ 質疑応答<br>■ 研修後のアンケート<br>■ 今後の学習方法 |

(C) Link and Motivation Group

# 【原因究明力向上研修】研修プログラム概要

## 原因究明力向上研修

●形式　：5-6人1組のグループを基本としたグループワーク、レクチャー
●時間　：1日（6時間）
●講師　：2名（ペアティーチング）

### ■プログラムの目的

『データなどの客観的指標を用いながら、仮説と検証を繰り返し**問題の所在や原因を特定できる力**を身に付ける』
・ピボットテーブルや関数を駆使し、状況把握と仮説検証による原因究明力を獲得する
└得られるスキル：データ作成力（関数、ピボットテーブル）/データ活用力（MECE、ロジックツリー、IS/IS NOT、5W1H）

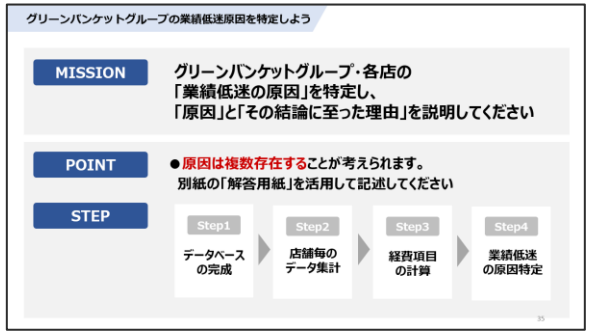
### ■プログラムの流れ

**STEP1：情報整理**

Excel関数、ピボットを使って、
素データを整理する

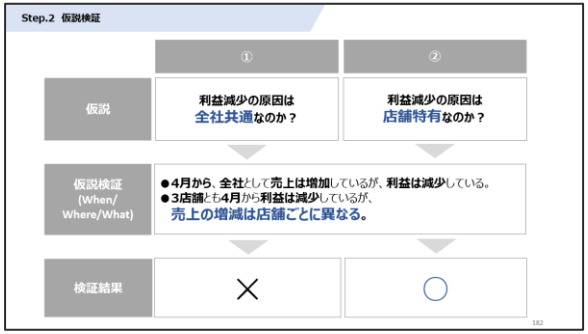
**STEP2：仮説立て**

事象から
原因となる仮説を
網羅的に洗い出す

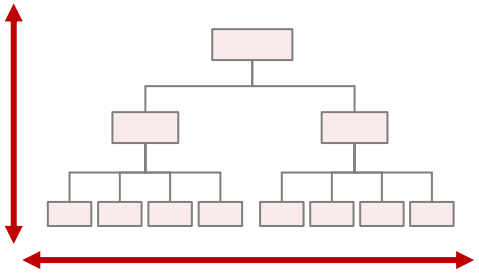
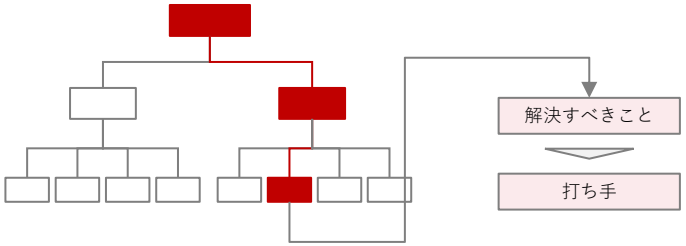



**STEP3：仮説検証**

仮説とデータを
照らし合わせて
有効な原因を特定する



# 【原因究明力向上研修】プログラム内容_観点

| | データ作成力 | データ活用力 | |
|---|---|---|---|
| 実現したい状態 | 網羅的に、早く、正しく現状を捉える力<br>  | 広く、深く分析し、最も解決すべき要因を特定する力<br>  | |
| 必要なスキル | Excelスキル<br>（関数/ピボットテーブル） | 仮説出し<br>（MECE、ロジックツリー） | 仮説検証<br>（IS/IS NOT、5W1H） |
| 観点 | 「力技」ではなく<br>「効率的」にデータベースを構築する | 「事象」ではなく<br>「原因」を網羅的に洗い出す | 「定性データ」だけではなく<br>「定量データ」を合わせて判断する |
| 詳細 | 問題解決を行う大前提には、<br>網羅的で正しいデータベースを<br>素早く構築することが重要である。<br>その上では、最低限の「関数」や<br>「ピボットテーブル」スキルが必要である。 | 解決すべき問題を特定するには、<br>事象の背景にある原因を網羅的に<br>洗い出すことが重要である。その上では、<br>「MECE」「ロジックツリー」を用いて、<br>垂直・水平に深ぼるスキルが必要である。 | 解決すべき要因を特定するには、<br>定性データに定量データを掛け合わせ、<br>妥当性の高い仮説へ絞り込むことが<br>重要である。その上では、「起きていること」<br>「起きていないこと」を区別する必要がある。 |

(C) Link and Motivation Group

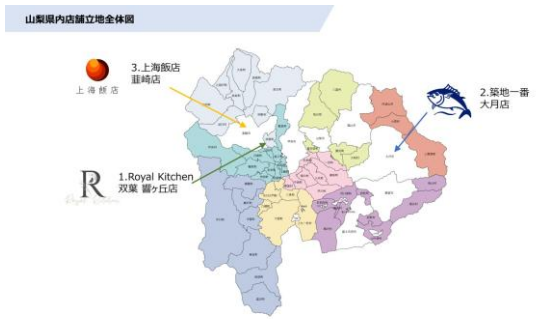
# 【原因究明力向上研修】プログラム内容_ケースワーク

## ケース設定：外食チェーン「グリーンパケットグループ」の本部マネジャーとして業績低迷の原因を特定せよ

■研修全体の流れ

| Mission 0 | Mission 1 | Mission 2 | Mission 3 |
|---|---|---|---|
| 店舗毎のPOS、PL等の定量データを統合せよ！ | 各店舗のPLおよび全社のPLを算出せよ！ | PLデータをグラフで可視化せよ！ | 営業成績不振の原因を特定せよ！ |
| Step 1 ：Mission<br>VLOOKUP関数などを使い、ローデータを分析可能な状態にブラッシュアップしてください | Step 4 ：Mission<br>店舗毎のPLを作成し、全社PLを作成してください | Mission<br>データを可視化せよ。<br>全社PLおよび各店舗毎のPLからグラフ（総売上高／営業利益）を作成してください | Mission<br>グリーンパケットグループ・各店の「業績低迷の原因」を特定し、「原因」と「その結論に至った理由」を簡潔に説明してください |

■ケースワークの設定



# 【原因究明力向上研修】研修タイムテーブル

■ タイムテーブル

| 時間 | 0:10 | 0:50 | 0:10 | 0:50 | 1:00 | 0:50 | 0:10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 開催 | | モジュール1 | | モジュール2 | | モジュール3 | |
| 学習内容 | 導入 | データベースの完成 | 休憩 | 店舗毎のデータ集計 | 休憩 | 経費項目の計算 | 休憩 |
| 小目的 | ・研修の目的、全体像を理解する。 | 【MISSION】<br>各種マスターを使用し、分析可能なデータベースを作成する。<br>POSレジのローデータと各種マスターを突き合わせ、データを完成させる | | 【MISSION】<br>集計機能を用い、様々な切り口でデータを分析する。<br>データベースから、店舗毎の集計表を作成する。<br>様々な切り口でデータを分析する。 | | 【MISSION】<br>シフト表を用い、ビジネス関数や条件付き書式の活用方法を習得する。<br>経費項目の計算～給与計算する。<br>店舗の人件費を計算する。 | |
| 主な習得機能 | ■ 挨拶・自己紹介<br>■ 研修の目的<br>■ 全体像の把握<br>■ 諸注意 | 【個人ワーク】<br>■ 情報整理<br>■ IF関数<br>■ VLOOKUP関数<br>■ セルの書式設定 | | 【個人ワーク】<br>■ データ分析/集計<br>■ ピボットテーブル | | 【個人ワーク】<br>■ 日付/時間関数<br>■ シリアル値<br>■ 条件付き書式 | |

| 0:50 | 0:10 | 0:50 | 0:10 | 0:50 | 0:10 |
|---|---|---|---|---|---|
| モジュール4 | | モジュール5 | | モジュール6 | |
| グリーンバンケットグループの営業成績不振の特定① | 休憩 | グリーンバンケットグループの営業成績不振の特定② | 休憩 | グリーンバンケットグループの営業成績不振の特定③ | 総括 |
| 【MISSION】<br>現状把握と課題の抽出を行い、原因を追究する。<br>営業成績不振の原因を特定する。<br>①状況把握（SA）プロセス<br>利益減少の原因を特定する。 | | 【MISSION】<br>様々な側面から原因を掘り下げ、問題を明確化し、原因を究明する。<br>営業成績不振の原因を特定する。<br>②問題分析（PA）プロセス | | 【MISSION】<br>分析結果から原因を考察し、報告資料を作成する。<br>報告資料作成 | ・研修で何を実施したのかを振り返りつつ、個別での質問にお応えする。 |
| 【個人ワーク】<br>■ PL作成<br>■ ピボットテーブル<br>■ 状況把握<br>■ グラフ作成/編集 | | 【個人ワーク】<br>■ データ分析<br>■ 問題分析<br>■ データ比較 | | 【グループワーク】<br>■ 報告資料作成<br>■ 発表 | ■ 研修の振り返り<br>■ 質疑応答<br>■ 研修後のアンケート<br>■ 今後の学習方法 |

(C) Link and Motivation Group

# 【データ分析研修（実践編）】プログラム概要

## データ分析研修（実践編）

●形式　　：5-6人1組のグループを基本としたグループワーク、レクチャー
●時間　　：1日（6時間）
●講師　　：2名（ペアティーチング）

### ■プログラムの目的

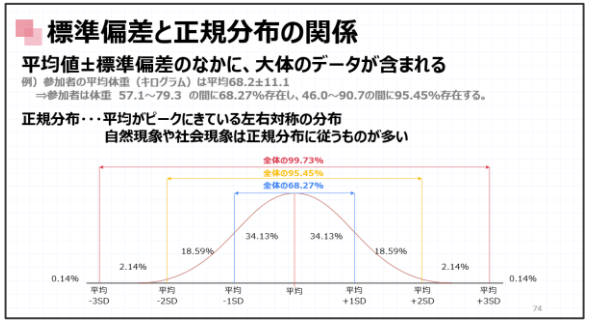
データから「何が読み取れるのか？」「データの変化の原因は何なのか？」といったデータの読み取り方について統計的なアプローチでデータを読み解く力を習得する。

└ Excelスキル：ピボットテーブル、AVERAGE関数、MEDIAN関数、STDEV.P関数、グラフ機能
　統計知識：相関分析、回帰分析

### ■プログラムの流れ

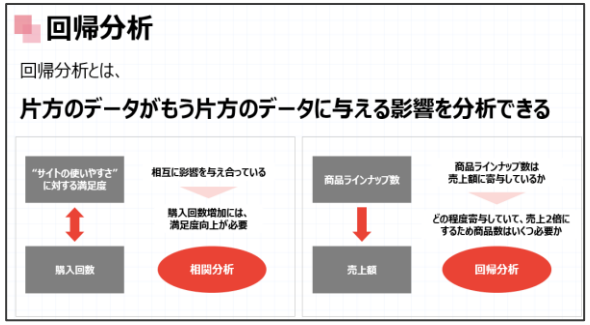
**STEP 1 ：現状把握**

データ全体を数値化することで
【傾向の分析が可能】
量的データを可視化することで
【傾向、課題の明確化が可能】



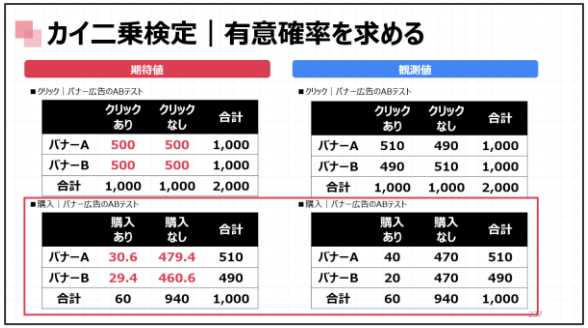

**STEP 2 ：原因分析**

【データ同士の相関と予測値の算出】
使用するデータの種類や
分析の目的も考慮



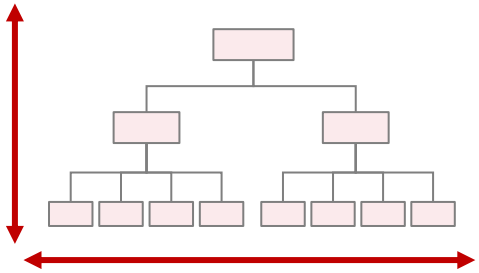
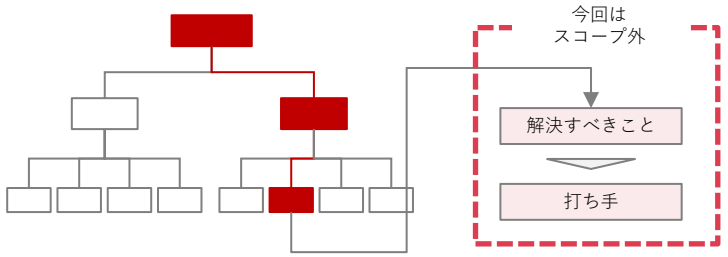

**STEP3：効果検証**

効果の割合に差があるかどうかを、
カイ二乗検定で検証することで
根拠を示すことが大事




(C) Link and Motivation Group

# 【データ分析研修（実践編）】プログラム内容_観点

| | データ作成力 | | データ活用力 | |
|---|---|---|---|---|
| 実現したい状態 | 網羅的に、早く、正しく現状を捉える力<br>  | | 広く、深く分析し、最も解決すべき要因を特定する力<br>  | |
| 必要なスキル | 基本統計量 | データの可視化 | 統計解析 | 統計検定 |
| | ・平均値/中央値/最頻値<br>・標準偏差<br>・分散 | ・度数分布/度数分布表<br>・ヒストグラム<br>・移動平均 | ・相関分析<br>・回帰分析 | ・カイ二乗検定 |
| 観点 | 「部分的」な情報把握ではなくデータの「全体像」を把握する | 「数字データ」ではなく「チャート化」することで状況を素早く把握する | 「単独データ」ではなく「複数データ」の関連性を把握する | 「数値」ではなく「分散」でデータを比較する |
| 詳細 | 一部の算出方法だけではデータの特性を誤解してしまう場合がある。「基本統計量」のそれぞれの特性を理解し、適切に使い分けることが重要である。 | 量的データや時系列データをグラフで「可視化」することで、大まかな傾向や関係性をつかみ、次なる分析の切り口の足がかりを創ることが重要である。 | 複数データの関連性を把握することで、仮説検証が可能になる。その際には、「相関分析」「回帰分析」によって影響度合いを数値化すること重要である。 | データ間の差は表層的な数値だけでは比較できない。データの比較においては、「散らばり」で捉えて、その散らばりを比較することで統計的に有意差があるかを確かめることが重要である。 |

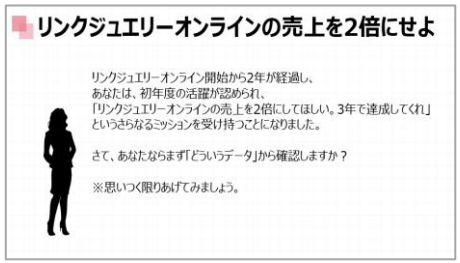
(C) Link and Motivation Group

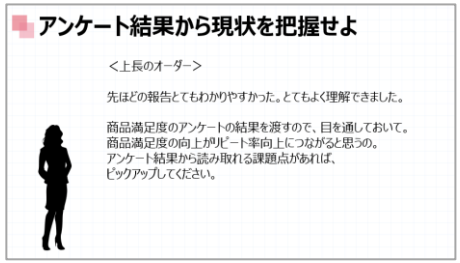
# 【データ分析研修（実践編）】プログラム内容_ケースワーク

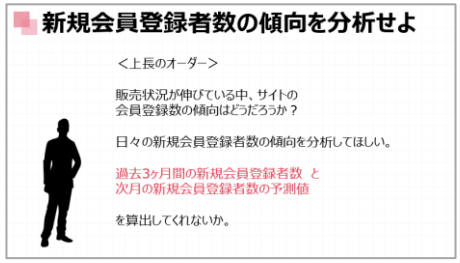
## ケース設定：ジュエリーブランド「リンクジュエリー」のオンライン販売の業績改善を図る

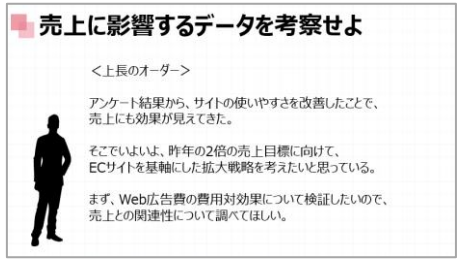
### ■研修全体の流れ

| Mission 1 | Mission 2 | Mission 3 | Mission 4 |
|---|---|---|---|
| リンクジュエリーオンラインの売上を2倍にせよ！ | アンケート結果から現状を把握せよ！ | 新規会員登録者数の傾向を分析せよ！ | 売上に影響するデータを考察せよ！ |



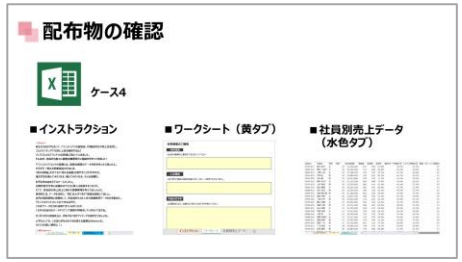



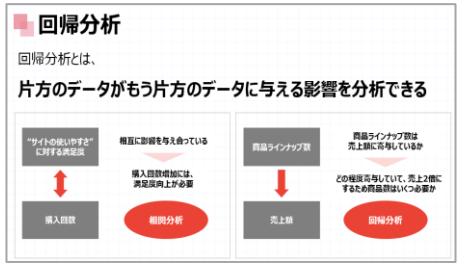




### ■各ケースワークの流れ

ケースワークのなかで、インプットとアウトプットを繰り返しながら、分析し仮説検証するスキルを習得していきます。

| インストラクション | 個人ワーク/グループワーク | 解説 |
|---|---|---|





# 【データ分析研修（実践編）】研修タイムテーブル

## ■ タイムテーブル

| 時間 | 0:10 | 0:50 | 0:10 | 0:50 | 1:00 | 0:50 | 0:10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 開催 | | モジュール1 | | モジュール2 | | モジュール3 | |
| 学習内容 | 導入 | 分析データを理解する | 休憩 | データの視覚化 | 休憩 | データのばらつき | 休憩 |
| 小目的 | ・研修の目的、全体像を理解する。 | ・分析データについて理解する。 | | ・データの視覚化と基本統計量に<br>ついて理解する。 | | ・基本統計量とデータのばらつきに<br>ついて理解する。 | |
| 主な<br>習得機能 | ■ 挨拶・自己紹介<br>■ 研修の目的<br>■ 全体像の把握<br>■ 諸注意 | ■ 母集団データ<br>■ 標本データ<br>■ 推定誤差<br>■ サンプリング | | ■ 基本統計量<br>■ ヒストグラム<br>■ 範囲<br>■ 尖度<br>■ 歪度<br>■ 分散<br>■ 標準偏差 | | ■ 標準誤差<br>■ 変動係数<br>■ 外れ値<br>■ 標準化<br>■ 偏差値 | |

| 0:50 | 0:10 | 0:50 | 0:10 | 0:50 | 0:10 |
|---|---|---|---|---|---|
| モジュール4 | | モジュール5 | | モジュール6 | |
| データのまとめ方 | 休憩 | 相関分析 | 休憩 | 回帰分析 | 総括 |
| ・変量のデータのまとめ方について<br>理解する。 | | ・相関・回帰分析を理解する。 | | ・質的変数を結果にした回帰分析を<br>理解する。 | ・研修で何を実施したのかを<br>振り返りつつ、個別での<br>質問にお応えする。 |
| ■ グロス集計表<br>■ 平均値の比較<br>■ 散布図<br>■ 相関 | | ■ 因果関係<br>■ 仮説検定<br>■ 相関分析 | | ■ ダミー変数<br>■ 有意確率 | ■ 研修の振り返り<br>■ 質疑応答<br>■ 研修後のアンケート<br>■ 今後の学習方法 |

(C) Link and Motivation Group

# 【データ分析研修（活用編）】プログラム概要

## Excelデータ分析研修（活用編）

●形式　　：5-6人1組のグループを基本としたグループワーク、レクチャー
●時間　　：1日（6時間）
●講師　　：2名（ペアティーチング）

**■プログラムの目的**

データ分析から要因を特定し、未来予測も含めた意思決定までのプロセス体感する。

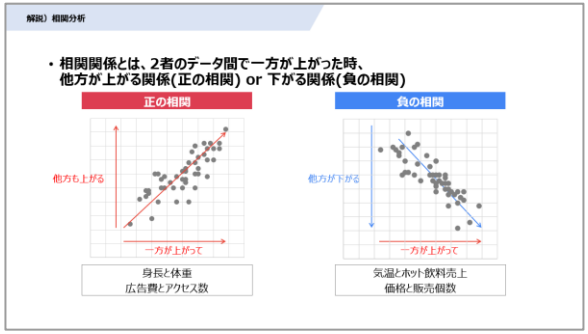
└ Excelスキル：

統計知識：相関分析、回帰分析、時系列分析

**■プログラムの流れ**

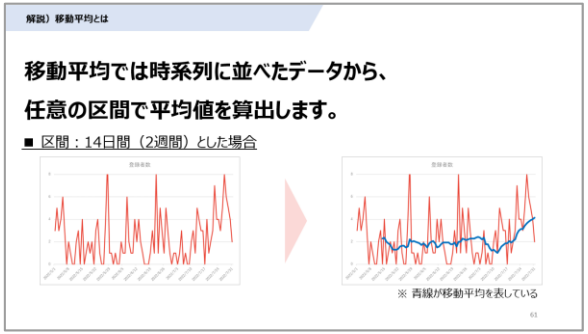
**STEP１：現状把握・要因の特定**

データ全体を数値化することで
【傾向の分析が可能】
質的データを量的データにすることで
【別視点の分析が可能に】




**STEP２：可視化**

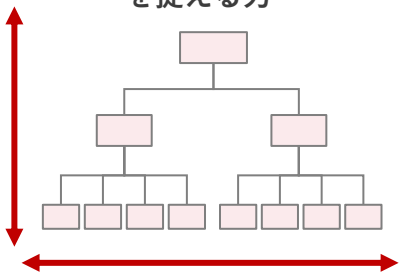
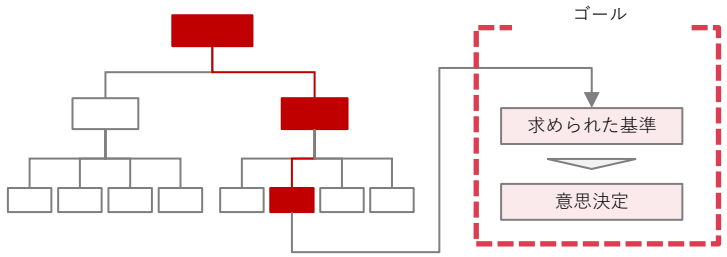
過去のデータトレンドを解析することで
【未来の出来事や動向の予測が可能】




**STEP3：未来予測・意思決定**

過去のデータ分析から
未来予測に繋げることで
【意思決定プロセスに
必要な分析力の習得が可能】

# 【データ分析研修（活用編）】プログラム内容_観点

| | データ作成力 | データ活用力 | | |
|---|---|---|---|---|
| 実現したい状態 | 網羅的に、早く、正しく現状を捉える力<br>  | 「データ分析」→「未来の予測」を踏まえた上で、意思決定に繋げる力<br>  | | |
| 必要なスキル | 現状の把握 | 要因の特定 | データの可視化 | 意思決定 |
| | ・分析可能なデータへの変換<br>・データの集約 | ・相関分析 | ・時系列分析（移動平均）<br>・外れ値 | ・回帰分析<br>・情報整理 |
| 観点 | 「部分的」な情報把握ではなくデータの「全体像」を把握する | 「単独データ」ではなく「複数データ」の関連性を把握する | 「瞬間的な変動」ではなく「全体的な傾向」を平滑化しトレンドを把握する | 「直観的な予測」ではなく「データに基づく関係性」で未来を予測する |
| 詳細 | 課題解決の初手として、表層的なデータの集計ではなく、適切なアプローチによって、データの特性を早く、正しく認識することが必要である。 | 複数データの関連性を「相関分析」によって影響度合いを導き出し、仮説検証する対象を明確にすることが重要である。 | 単純な過去データの延長では捉えきれない変化や異常値を見逃さない。モデル選択やデータの可視化を通じて、データの背後にある理論や要因を深く理解することが必要である。 | 回帰分析によって、結果に対する特定の要因の寄与度を明確化し、データに基づいた意思決定を支援する。 |

(C) Link and Motivation Group

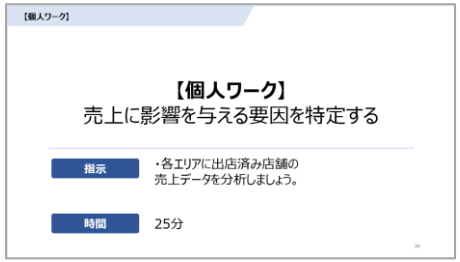
# 【データ分析研修（活用編）】プログラム内容_ケースワーク

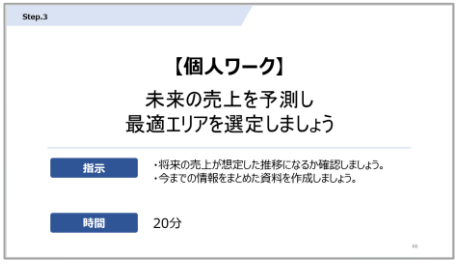


## ケース設定：家具ブランド「リンクホームズ」の新規出店先を決定する

### ■研修全体の流れ

| Mission 1 | Mission 2 | Mission 3 | Mission 4 |
|---|---|---|---|
| 売上に影響を与える<br>要因を特定せよ！ | データのトレンドを把握せよ！ | 未来の売上を予測せよ！ | 意思決定せよ！ |

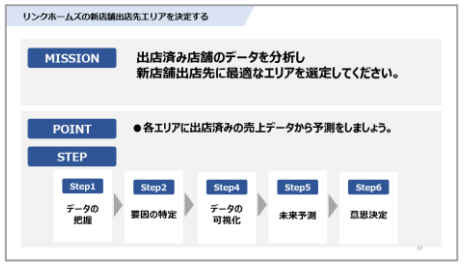


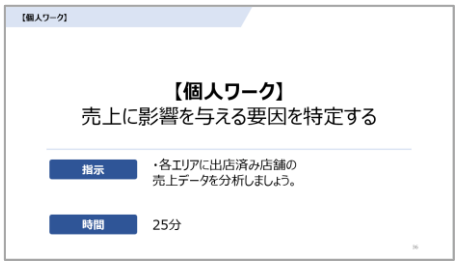


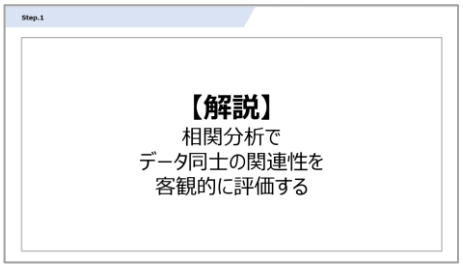
### ■各ケースワークの流れ

ケースワークのなかで、インプットとアウトプットを繰り返しながら、分析し仮説検証するスキルを習得していきます。

| インストラクション | 個人ワーク/グループワーク | 解説 |
|---|---|---|



# 【データ分析研修（活用編）】研修タイムテーブル

■ タイムテーブル

| 時間 | 0:10 | 0:30 | 0:10 | 0:50 | 0:10 | 1:10 | 1:00 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 開催 | | モジュール1 | | モジュール2 | | モジュール3 | |
| 学習内容 | 導入 | データ分析とは | 休憩 | 分析軸を考える | 休憩 | 仮説から要因を特定する | 休憩 |
| 小目的 | ・研修の目的、全体像を理解する。 | データ分析は”プロセス”であり、意思決定までの”手段”であることを理解する。 | | 仮説を立てるための分析軸を考え、目的達成に向けて軸を絞る。 | | 仮説立て→検証の必要性を理解し、要因特定までの流れ理解する。 | |
| 主な習得機能<br>※下線まで MUST<br>※下線以降 WANT | ■ 挨拶・自己紹介<br>■ 研修の目的<br>■ 全体像の把握<br>■ 諸注意 | ■個人ワーク（15分） | | ■クロス集計<br>■相関分析<br>■個人ワーク（25分） | | ■分析プロセス再思考<br>■テキストマイニング（紹介）<br>■個人ワーク（15分）<br>■グループワーク（20分） | |

| 0:35 | 0:10 | 0:55 | 0:10 | 0:55 | 0:15 |
|---|---|---|---|---|---|
| モジュール4 | | モジュール5 | | モジュール6 | |
| 売上との相関を特定 | 休憩 | 時間軸を考慮した分析 | 休憩 | 新店舗展開に向けた予測 | 総括 |
| 過去の売上データから、売上の与える要因を特定する。 | | 時系列で売上データを分析し、トレンドを把握する。”はずれ値”を検知して、正しい分析を行う。 | | 回帰分析を行い、エグゼクティブレポートを作成する。 | ・研修で何を実施したのかを振り返りつつ、個別での質問にお応えする。 |
| ■相関分析<br>■個人ワーク（10分）<br>■個人ワーク（15分） | | ■時系列分析<br>└はずれ値<br>└移動平均法<br>■個人ワーク（15分） | | ■回帰分析<br>■個人ワーク（15分）<br>■グループワーク（20分） | ■ 研修の振り返り<br>■ 質疑応答<br>■ 研修後のアンケート<br>■ 今後の学習方法 |

(C) Link and Motivation Group

# データリテラシー研修

●形式　　：5-6人1組のグループを基本としたグループワーク、レクチャー
●時間　　：1日（6時間）
●講師　　：2名（ペアティーチング）

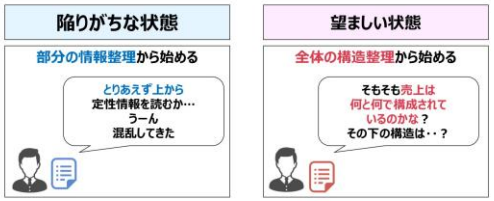
**■プログラムの目的**

『データ分析の基本を学び、データ活用する力をハンズオンで習得する』
・「データリテラシー=データを読み解き、課題解決に活かす能力」を獲得する
　└得られるスキル：データ作成力（データベース思考、構造化・正規化）／データ活用力（仮説構築のポイント、相関分析）

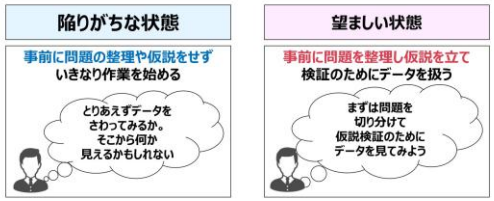
**■プログラムの流れ**

| STEP１：現状把握 | STEP２：原因分析 | STEP3：施策提案 |
|---|---|---|
| 「構造思考」と「全体俯瞰」により網羅的に、早く、正しく現状を捉える（MECE、代表値） | 問題を「要素分解」することで最も解決すべき原因を見抜く（IS/IS NOT） | 特定された問題に対して「目的立脚」で打ち手を講じる（WHY-WHAT-HOW） |

**「早く」「正しく」解を出すポイントは？**



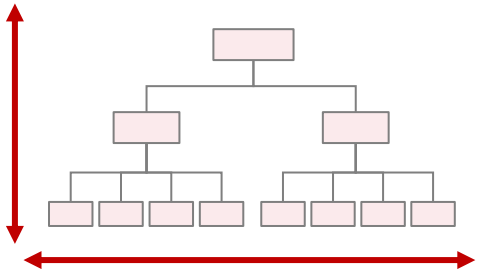
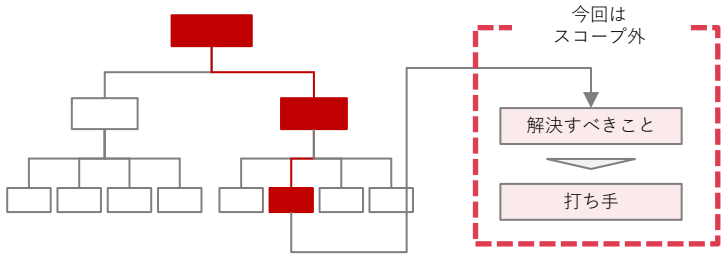

**「広く」「深く」分析をするポイントは？**




**「最も解決すべき」問題を特定するポイントは？**

# 【データリテラシー研修】　プログラム内容_観点



| | データ作成力 | データ活用力 |
|---|---|---|
| 実現したい状態 | 網羅的に、早く、正しく現状を捉える力<br>  | 広く、深く分析し、最も解決すべき要因を特定する力<br>  |
| 必要なスキル | エクセルスキル | |

| | 構造思考<br>（MECE/水準） | 全体俯瞰<br>（代表値） | 要素分解<br>（IS/IS NOT） | 目的立脚<br>（WHY-WHAT-HOW） |
|---|---|---|---|---|
| 観点 | 「部分の情報」整理<br>ではなく<br>「全体の構造」を見抜く | 「一つ」ではなく<br>「複数」の切り口で<br>データを読み解く | 「IS/IS NOT」に<br>問題を切り分けて、<br>素早く原因を見抜く | 「HOW」ではなく<br>「WHY」に立ち返り<br>分析する |
| 詳細 | 「網羅的に」「早く」データ作成を行うには、「構造思考」を持つことが重要である。その上では、「水準」や「MECE」であることを意識することが有効である。 | 「正しい」データ作成を行うには、「全体俯瞰」を行うことが重要である。その上では、平均以外の「代表値」で数字を見る癖付けをすることが有効である。 | 原因分析を行う際は、事前に問題発生部分の特定および推定原因を想定することが重要である。その際には「IS/IS NOT」思考法が有効である。 | 「HOW（手段）」ありきで原因分析を行うと、目的とズレた結果となり、成果につながらない。「WHY（目的）」に立ち返ることが問題解決の近道となる。 |

(C) Link and Motivation Group

# 【データリテラシー研修】　プログラム内容_ケースワーク

## ケース設定：化粧品メーカー「リンクコスメ」の経営企画部のメンバーとして新店舗開設を成功させる

### ■研修全体の流れ

| Mission 1 | Mission 2 | Mission 3 | Mission 4 |
|---|---|---|---|
| リンクコスメの売上を算出せよ！ | リンクコスメの売上データを分析せよ！ | 新商品をテスト販売する店舗を選定せよ！ | リンクコスメの売上に最も影響する要素を1つ特定せよ！ |

**Mission1　インストラクション**

リンクコスメは、半年ほど前にアピバコスメとDAIEI堂が合併してできた新しい会社です。
『あなたのお肌に、本気のパートナーを。』をキャッチコピーに日本中に様々なコスメグッズを展開しています。

あなたはリンクコスメの経営企画部のメンバーです。ビジョン実現に向け様々なデータを取り扱う部署ですが、合併したばかりで情報がまとまっておらず、点在している情報を集約するだけでも苦労しています。

そんなある日、関東事業部の事業部長から「本日の経営会議で使用するので、昨年の関東事業部の売上合計を正確に教えて欲しい」という依頼を受けました。
早速データをかき集めましたが、情報の形式やデータの桁数、商品カテゴリーなどあらゆるものがバラバラで、簡単に整理できそうにありません。

さあ、経営企画部として腕の見せ所です。要望された時間まで残り時間は限られてます。
あなたは急いでデータを取りまとめ始めました。

**Mission2　インストラクション**

この度、リンクコスメでは性別・季節・年代を問わず使えるボーダーレスな新商品『ワンストップ』をリリースすることになりました。
今日はその商品開発本部の会議に参加しています。

今日の会議のアジェンダは『ワンストップ』のテスト販売を行う店舗の決定です。
テスト販売を通じて得たデータが、今後の販売戦略を決めるだけに慎重な判断が求められます。
現在「新宿」「渋谷」「銀座」の3店舗まで候補を絞り込むことができました。
けれども、それぞれの店舗を推すメンバーの意見もあり、なかなか結論に至りません。

議論を見かねた商品開発部長から、あなたに下記のような依頼がありました。

**Mission3　インストラクション**

「君も知っていると思うが、関東事業部 代理店販売の売上が減少傾向にある。直営店の売上は落ちていないので不思議に思い、何人かに話を聞いてみたのだが

『やはり人手不足かな。最近入退者も多い気がするし』
『競合の存在は大きいよね。ワンストップは良い商品だけど、韓国メーカーや大手医薬品も続々参入してきているし』

など、原因は今一つ分からないままなんだ。
そこで君に売上低下要因を特定してもらいたいと思っている。
必要な情報はまとめてあるので、それを元に原因分析をしてほしい。
よろしく頼むよ。」

早速あなたはデータを元に分析をすることにしました。

**Mission4　インストラクション**

あなたのおかげもあって、『ワンストップ』の直営店、代理店双方の売上は安定し、コスメランキングでも常に上位を維持するなど
リンクコスメのブランド力は急速に高まっていきました。

そんな中、社長から直々に経営企画室宛てに電話がかかってきました！

「『ワンストップ』ヒットの裏側には、経営企画室のデータ分析があったと聞いたよ。
さすがだ！更なる事業成長のためには、
『売れる商品』だけでなく『売れる店舗』を増やすことが不可欠だ。
誰もが足を運んでみたくなる、働いてみたくなる、そんな店舗だ。

まずは渋谷店をモデルケースとしたい。
比較的若手が多い店舗なのでさらに新人を配属するつもりだ。
そこで、渋谷店の売上向上に向けた営業戦略を考えてほしいんだ。

### ■各ケースワークの流れ

ケースワークのなかで、インプットとアウトプットを繰り返しながら、データリテラシー獲得に必要な知識や観点を習得していきます。

| インストラクション | 個人ワーク/グループワーク | 解説 | 追加解説 |
|---|---|---|---|

**配布物の確認**

**進め方**

個人ワーク（情報読み込み）：3分
グループワーク：25分

・ブレイクアウトルームに分かれた後質問がある場合は「ヘルプを求める」でご連絡ください。
・終わったら、**思考手順**をグループで言語化しておいてください。

**解説**

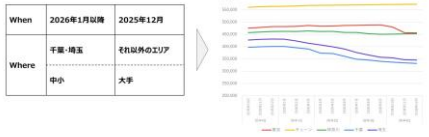
Mission
渋谷店における売上向上要因の特定と、打ち手を提案せよ！

やるべきこと
売上に「最も関係のある項目」を特定する

分析手法
相関分析

**追加Excel機能**

SUMIF関数



# 【データリテラシー研修】　研修タイムテーブル

■ タイムテーブル

| 時間 | 0:25 | 0:55 | 0:10 | 0:30 | 0:10 | 0:25 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開催 | | モジュール1 | | モジュール2 | | モジュール3 |
| 学習内容 | 導入 | データ作成パート①<br>構造化ワーク | 休憩 | データ作成パート②<br>代表値ワーク1 | 休憩 | データ作成パート②<br>代表値ワーク2 |
| 小目的 | ・研修の目的、全体像を理解する | ・データを作成する上での構造化の<br>ポイントを習得する | | ・データを見るうえでのバイアスを省くことの重要性を理解する | | ・データを見るうえでのバイアスを省くことの重要性を理解する |
| 時間詳細 | ■ 諸注意<br>■ 研修の目的<br>■ 全体像説明<br>■ 自己紹介 | ■ インストラクション<br>■ 個人ワーク<br>■ グループワーク<br>■ 発表<br>■ 解説<br>■ 質疑応答 | | ■ インストラクション<br>■ グループワーク<br>■ 発表 | | ■ 解説<br>■ 質疑応答 |

| 1:10 | 0:10 | 1:05 | 0:10 | 0:40 | 0:20 |
|---|---|---|---|---|---|
| モジュール4 | | モジュール5 | | モジュール6 | モジュール7 |
| データ活用パート①<br>IS IS Notワーク | 休憩 | データ活用パート②<br>相関分析ワーク | 休憩 | 振り返りワーク | 総括 |
| ・データを活用する上での仮説構築の<br>ポイントを習得する | | ・データを活用する上での仮説検証のポイントを習得する | | ・研修で何を実施したのかを振り返り、<br>業務での活用可能性を考える | |
| ■ インストラクション<br>■ 個人ワーク<br>■ グループワーク<br>■ 発表<br>■ 解説 | | ■ インストラクション<br>■ グループワーク<br>■ 解説<br>■ 発表<br>■ 質疑応答 | | ■ インストラクション<br>■ 個人ワーク<br>■ グループ共有<br>■ 発表 | ■ まとめ<br>■ アンケート回答 |

(C) Link and Motivation Group

# 【Power BI Desktop研修（ 入門編）】プログラム概要

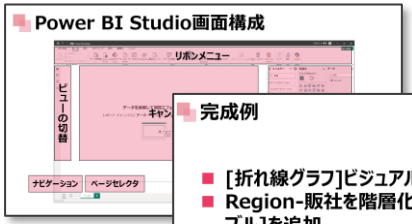
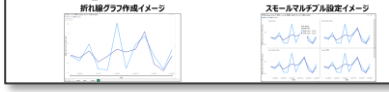
## Power BI Desktop研修（ 入門編）

●形式　　：スクール形式一斉型研修
●時間　　：半日（2～3時間）

**■プログラムの目的**

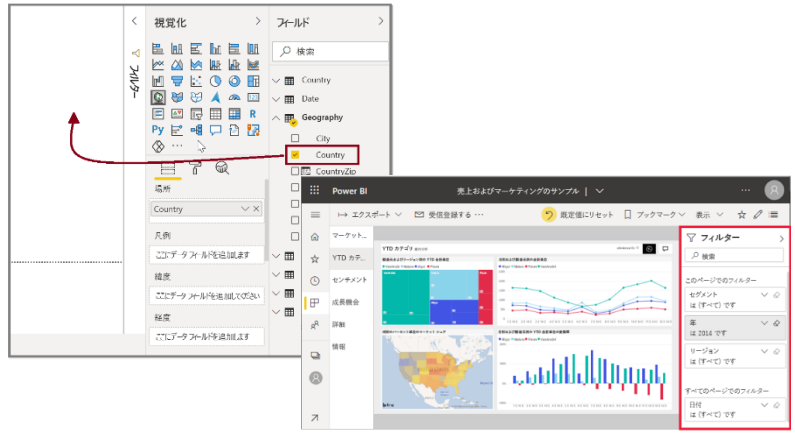
・ＢＩツール、PowerBIの基本的な理解と、操作性、利活用方法を理解いただくことを目的とした研修です。
・研修内容
　└BIとは？／PowerBI Desktopの使いどころ／ソースデータのインポート方法／レポートの作成と主なビジュアル作成方法

**■プログラムの流れ**

| STEP１：概念理解 | STEP２：ツール理解 | STEP3：ツール操作 |
|---|---|---|
| BI（BusinessIntelligence）の概念や考え方、必要とされる背景を理解し、学習や利活用の動機形成を行う | BIツール「Power BI」の概要、スペック、利活用方法、具体的な利用シーンを理解する | 実際にPowerBIを使用して、さまざまなレポート作成、データのビジュアル化を行う。 |
| **BI とは**<br>■ Business Intelligenceの略で、経営上・業務上の意思決定支援を目的とした、分析プロセス、またはその技術のこと<br>■ 狭義には、大量データの収集・加工・分析を支援するBIツールを指す。ダッシュボードと呼ばれる可視化機能に強みを持つ | **Power BI Desktopの特徴**<br>■ マルチソースアクセス<br>■ 大規模データ拡張性<br>■ 豊富なビジュアルタイプ<br>■ ライセンスフリー<br>■ 学習コストの低さ | **Power BI Studio画面構成**<br>  <br>**完成例**<br>■ [折れ線グラフ]ビジュアルを作成<br>■ Region-販社を階層化し[スモールマルチブル]を追加<br>  |

# 【Power BI Desktop研修（ 入門編）】タイムテーブル






## ■ プログラム概要

**■　プログラム目的**
・Power BIとは何か、また使用することでの効果、メリットを理解する
・実際に操作をしながら何が可視化できるかを体験し、Power BIの機能を理解する

**■　習得するスキル**
・Power BIの基本機能
・レポート作成操作

## ■ タイムテーブル

| 時間 | 0:10 | 0:30 | 0:30 | 0:20 |
|---|---|---|---|---|
| 開催 | | モジュール1 | モジュール2 | モジュール3 |
| 学習内容 | 導入 | Power BIの基本概要 | レポート作成の基本操作 | 総括 |
| 小目的 | ・研修の目的、全体像を理解する。 | ・Power BIとは何か、また使用することでの効果、メリットを理解する | ・実際に操作をしながら何が可視化できるかを体験し、Power BIの機能を理解する | ・研修で何を実施したのかを振り返る。 |
| 主な習得機能 | ■ 挨拶・自己紹介<br>■ 研修の目的<br>■ 全体像の把握<br>■ 諸注意 | ■ Power BIとは<br>■ Power BIでできること<br>■ Power BI導入による具体的効果 | ■ データインポート<br>■ レポートの構造<br>■ ページの書式設定や画像の設定<br>■ グラフ表示の基本 | ■ 研修の振り返り<br>■ 実務との接続<br>■ 質疑応答<br>■ 研修後のアンケート |

(C) Link and Motivation Group

# 研修イメージ_演習ワーク

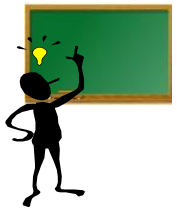
## インストラクション

### ミニ演習②

- ここまでの研修内容を踏まえ、レポート作成にチャレンジしてみよう

### シーン設定

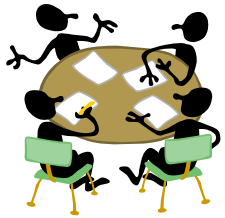
- 台数ベースの予実進捗を全部門で常時閲覧可能なダッシュボード制作に着手
- 現時点の予実進捗だけでなく、予実販売台数推移を確認できるようページ追加に着手



## 個人ワーク/グループワーク

### 作成手順

- 準備データを開く
- ページを追加
- [折れ線グラフ] ビジュアルを作成
- 「Region-販社」階層の作成
- [スモールマルチブル]を追加
- [名前を付けて保存]し完成



## 解説

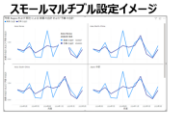
正解例解説

### 正解例手順紹介

- 講師用手順を参考に、正解操作を紹介

### 完成例

- [折れ線グラフ]ビジュアルを作成
- Region-販社を階層化し[スモールマルチブル]を追加




(C) Link and Motivation Group

# 参加者の声

## 参加者の感想（VOICE）

**【データ分析研修】受講者アンケートより**

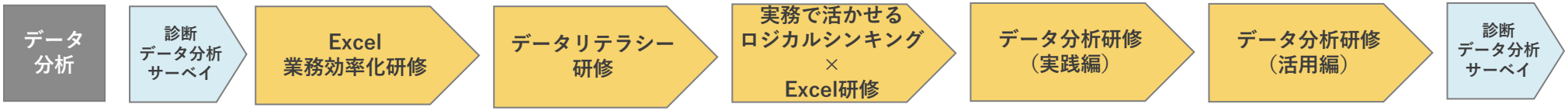
・広告の露出量と新規顧客数の関係性や広告のクリエイティブ素材に対するABテストなどに活用できる。
・**BIツールを活用したデータ分析の際に生かすことができそう**
・**データ不良のバラつき修正はデータ分析する機会が多い**為、今回の研修内容がすぐに活かせると思います。
・トラブル発生件数の集計 PowerPointでの資料作成 業務内でのデータ分析、集計などに活用できる。
・データの傾向の読み取りや、グラフから強調しているポイントを見ることは活用できそうだと思う。
・データ分析する際の**目的を明確にすることで無駄な分析を避ける**ことができると感じた。
・分析レポートでは、平均値のみ記載する場面が多かったが、中央値や、標準偏差を用いて、データのばらつき、信憑性についても分析を行ってみたい。
・**KPIや分析結果を求められる**業務が増えていくことが想定されるため非常に勉強になった。
・分析にあたり目的を持つこと・見せ方が重要であるということは、すぐにでも業務に落とし込めそうだと思った。
・広告投資の予測や、自分が課題を感じている点への**仮説検定はすぐに実践できる**。

**【データリテラシー研修】受講者アンケートより**

・**実務での活用シーンが思い浮かぶ内容**で大変学びになった。
・私が参加した目的である、**社内のデータを見る力の欠如が少し改善される**と思う。
・実業務で**需要予測**を行っているため、その部分で**商品の性質などを調べる際に活用できる**のではないかと思った。
・**データクリーニングの重要性を改めて感じた**。関数を覚えてもそれを正しく意図ある形に可視化や分析するためには、元データのクリーニングがしっかりしていないといけないと感じた。
・今行っている業務との連動性があるため、**日々の業務で反芻できる**。
・元となるデータベースの整備が肝心だと思いますが、それと便利なツールとの組み合わせで業務に活用できると思いました。
・データで現状を捉えようという視点を、強くもつことにつながった。

# 費用

# 費用感_データ活用人材育成




**【20名1クラス、対面開催の場合】**

| 概要 | | 単価 | 個数 | 小計（税別） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| Excel業務効率化研修 | 講師費 | 350,000 | 1クラス | 350,000 | メイン講師、サブ講師<br>※参加者9名未満の場合はメイン講師のみ |
| | 参加費 | 30,000 | 20名 | 600,000 | |
| | 対面研修費 | 50,000 | 1クラス | 50,000 | |
| | **研修費合計** | | | **1,000,000** | |
| データリテラシー研修 | 講師費 | 525,000 | 1クラス | 525,000 | メイン講師、サブ講師<br>※参加者9名未満の場合はメイン講師のみ |
| | 参加費 | 30,000 | 20名 | 600,000 | |
| | 対面研修費 | 50,000 | 1クラス | 50,000 | |
| | **研修費合計** | | | **1,175,000** | |
| 実務で活かせる<br>ロジカルシンキング<br>×<br>Excel研修 | 講師費 | 525,000 | 1クラス | 525,000 | メイン講師、サブ講師<br>※参加者9名未満の場合はメイン講師のみ |
| | 参加費 | 30,000 | 20名 | 600,000 | |
| | 対面研修費 | 50,000 | 1クラス | 50,000 | |
| | **研修費合計** | | | **1,175,000** | |
| データ分析研修<br>（実践編） | 講師費 | 525,000 | 1クラス | 525,000 | メイン講師、サブ講師<br>※参加者9名未満の場合はメイン講師のみ |
| | 参加費 | 30,000 | 20名 | 600,000 | |
| | 対面研修費 | 50,000 | 1クラス | 50,000 | |
| | **研修費合計** | | | **1,175,000** | |
| データ分析研修<br>（活用編） | 講師費 | 525,000 | 1クラス | 525,000 | メイン講師、サブ講師<br>※参加者9名未満の場合はメイン講師のみ |
| | 参加費 | 30,000 | 20名 | 600,000 | |
| | 対面研修費 | 50,000 | 1クラス | 50,000 | |
| | **研修費合計** | | | **1,175,000** | |
| データ分析サーベイ | アカウント発行費 | 3,000 | 40名 | 120,000 | 20名×2回 |
| サーベイ | **合計** | | | **120,000** | |

(C) Link and Motivation Group

# Appendix：弊社のご紹介

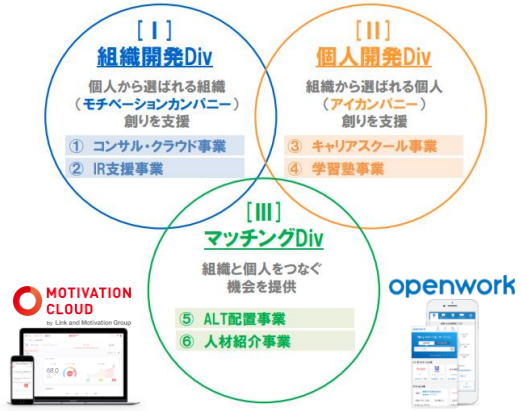
# リンクアンドモチベーショングループ紹介

**創業以来20年以上、モチベーションをテーマに組織人事支援してきたコンサルティンググループです。**
**リンクアカデミーは、アビバ・大栄・ロゼッタストーンの3つのスクールブランドを持ち、**
**挫折させないリスキリングサービスを法人と個人に提供しています。**

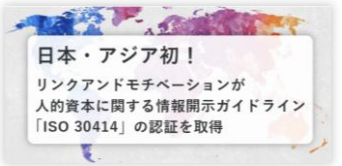
## グループ概要

- 社名　株式会社リンクアンドモチベーション
- 上場市場　東京証券取引所　プライム市場（証券コード：2170）
- 創業　2000年 4月 7日
- 資本金　13億8,061万円　※2023年12月末現在
- 売上高　339億円（連結）　※2023年12月末現在
- 従業員数　1,470名（連結）　※2023年12月末現在
- ミッション　私たちは、モチベーションエンジニアリングによって
  組織と個人に変革の機会を提供し
  意味のあふれる社会を実現する

■ 事業構造




■ トピックス



## リンクアカデミー概要

- 社名　株式会社リンクアカデミー
- 設立　2013年12月31日
- 事業内容　法人向けDX・リスキリング支援
  個人向けPCスキル獲得、資格取得、語学スキル獲得支援
- ミッション　あなたのキャリアに、
  本気のキャリアパートナーを。

**生き生きとした暮らしの実現に向けて**
ICT教育サービスのプロ集団として、ビジネスシーンで必要とされるPC・ITスキルを指導するスクールブランド

**資格合格という喜びのために人々が支えあう**
簿記・宅建士など資格取得により、就転職やキャリアアップを実現したい人のための資格専門スクールブランド

**“挫折させない”マンツーマン英会話**
マンツーマンレッスン、発音×英会話、オンラインレッスンノートなどを組み合わせた、英・仏会話スクールブランド

(C) Link and Motivation Group

# パソコン教室のアビバとして長年培ってきた指導ノウハウ×組織人事の専門性により おひとりおひとりのPCスキル向上を「確実に」実現します。

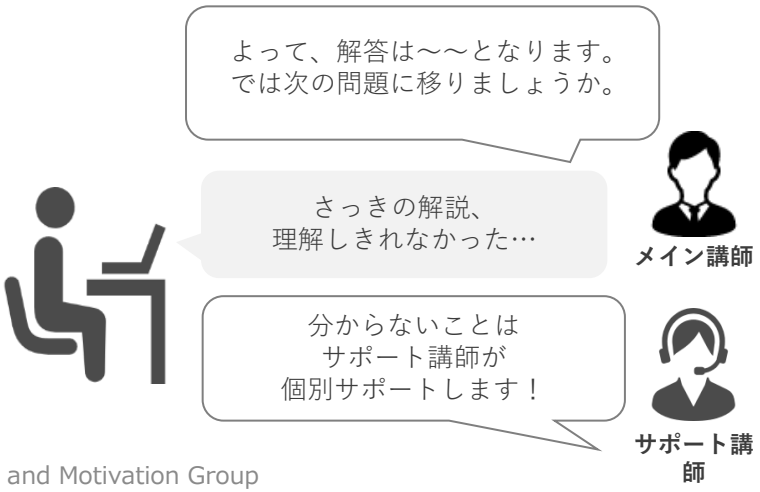
## Officeを中心とするPCスキル底上げに強み

### PCスキル研修
ITスキルの基礎からスキルの応用まで
インタラクティブなLIVE研修によって
確かなスキルを提供します

### 資格取得支援アプリ
ITパスポート等の資格取得に向けて
専用アプリでInput/Outputを繰り返し、
スタッフによる個別フォローを行うことで
合格へ導きます

## 学術的背景を元にした技術や組織人事の知見

## 複数の講師による優しくておせっかいな指導




## 業種・業態を問わず1,000社以上の企業への支援実績

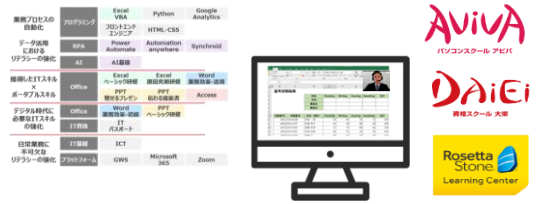
MIZUHO
MUFG
三菱UFJ銀行
SEKISUI
日清製粉
TOPPAN
COSMO

(C) Link and Motivation Group

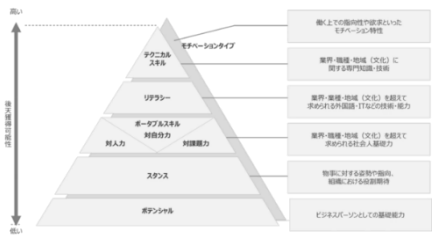
## 「独自の変革技術（モチベーションエンジニアリング）」と「デジタルリスキリングの専門性」を掛け合わせたご支援を通じて、貴社の理想のDXを推進いたします。

■経営学・社会システム論・行動経済学・心理学などの学術成果を元に創り出した独自の人間観・組織観

■50年間にわたるITスキル教育で培った変革技術




■リーダーシップ・マネジメントスキル・各種ベーシックスキル等の育成支援ノウハウ




学術理論

スクール事業

個人開発

**Motivation Engineering**

実効性・再現性の高い組織変革・人材育成を実現してきた診断技術・変革技術

**Digital Knowledge**

デジタルスキル教育支援（スクール事業）と豊富なDX推進実践例を軸に築き上げた変革技術

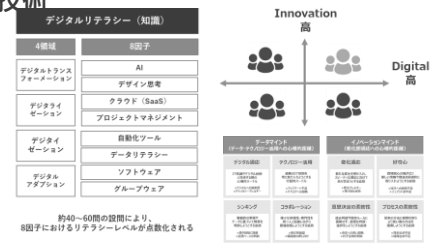
個人診断

組織開発

DX推進

**Service**

■個人のデジタルスキル・マインドの診断技術




■事業戦略を実現するための組織変革ノウハウ

■DXフェーズ×ステークホルダー別の阻害要因マップ

(C) Link and Motivation Group

Link and Motivation Group